

令和 7 年度入学試験問題

地 理 歴 史

注 意 事 項

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはならない。
- 2 問題冊子は、全部で 25 ページある。(落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出ること。)

問題冊子の中に下書き用紙が 1 枚入っている。

世 界 史	1 ～ 7 ページ
日 本 史	8 ～ 14 ページ
地 理	15 ～ 25 ページ

- 3 解答用紙は、問題冊子とは別になっている。
- 4 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入すること。
- 5 受験番号は、各解答用紙の指定された 2 箇所に必ず記入すること。
- 6 解答時間は、90 分である。
- 7 問題冊子および下書き用紙は、持ち帰ること。

- 1 次の文章を読み、問 1 ～問 5 に答えよ。なお、引用文には省略したところがある。

大きく見れば、有力者に封土を与えて世襲的に統治させる周代の封建制度が春秋・戦国の動乱^(a)のなかでくずれた後、官僚を派遣して統治する郡県制度が秦に^(b)よって全国的に採用され、その後の二千年以上に及ぶ帝政時代を通ずる制度となった、と見ることができる。しかし、新しく獲得した土地に「県」をおいて直接統治する方法は、春秋・戦国時代から見られるものであって、秦の独創ではない。そして、秦の統一以降も、「封建」的な支配方式はなくなったわけではない。^(c)国内で一族や功臣に領土を与えて世襲的に統治させる場合、国内で少数民族の首長に世襲の支配権を与えて間接統治する場合、また、周辺諸国の君主に王号を与えて中国を中心とする世界秩序のなかに組み込もうとする場合^(e)のように、中国の帝政時代を通じ、「封建」的支配様式は柔軟に活用されているのである。

(出典：岸本美緒『中国の歴史』筑摩書房)

- 問 1 下線部(a)に関して、周は封建を行うとともに、氏族のまとまりや、親族関係に関する規範を重んじた。この規範の名称を記せ。
- 問 2 下線部(b)に関して、春秋・戦国時代には様々な思想家が活躍した。このうち、血縁をこえた無差別の愛や、家柄でなく個人の能力にもとづく実力主義を唱えた一派の名称を記せ。
- 問 3 下線部(c)に関して、秦は全国を統一した後、郡県制以外にどのような政策を行ったのか、具体的に説明せよ。

問 4 下線部(d)に関して，漢は当初，郡県制とこのような方法を併用する郡国制を用いていた。この郡国制が変化していった経緯を説明せよ。

問 5 下線部(e)に関して，このようにして作られた国際秩序のことを特に何と呼ぶか，名称を記せ。

2

次の文章A～Dを読み、問1～問10に答えよ。

A 661年、第4代正統カリフの **ア** と対立していたシリア総督 **イ** がウマイヤ朝を開いた。ウマイヤ朝では支配層であるアラブ人のイスラーム教徒(ムスリム)が軍事力を独占し、税制上でも特権を持っていたため、イラン人など異民族出身の改宗者は不満を募らせるようになった。こうした社会の対立に乗じてムハンマドの叔父の子孫であるアッバース家が反乱を起こし、ウマイヤ朝は滅亡した。^(a)

B 1055年、トルコ系の軍事政権であるセルジューク朝のトゥグリル＝ベクが、シーア派のブワイフ朝を追放してバグダードに入城し、アッバース朝カリフから **ウ** の称号を授けられた。セルジューク朝ではシーア派に対抗するためにスンナ派の振興政策がとられ、主要都市にマドラサ(学院)が設立され、スンナ派の学問が教授された。^{(b)(c)(d)}

C 12世紀頃からイスラーム世界の各地でスーフィー教団(イスラーム神秘主義教団)が結成され、その核となった著名なスーフィー聖者たちの墓廟も重要な参詣対象となった。^(e)一方、18世紀半ばのアラビア半島では、**エ** 派がイスラーム改革運動を起こし、聖者への崇敬は預言者ムハンマドの時代にはなかったとして、豪族サウード家と結んで聖者廟を破壊していった。^{(f)(g)}

D 1973年、エジプト、シリアとイスラエルとの間で第4次中東戦争が勃発した。^(h)アラブ石油輸出国機構(OAPEC)と石油輸出国機構(OPEC)による石油戦略によって第1次石油危機(第1次オイル＝ショック)が生じ、西側諸国の経済は大きな打撃を受けた。⁽ⁱ⁾

問1 空欄 **ア** ～ **エ** に適当な語句を入れよ。

- 問 2 下線部(a)に関連して、アッバース朝における税制上の政策について説明せよ。
- 問 3 下線部(b)に関して、シーア派はいくつかの派に分けられる。サファヴィー朝が教えを受け入れ、国教としたシーア派の一派の名称を記せ。
- 問 4 下線部(c)に関して、プワイフ朝で開始されセルジューク朝でも行われた、軍人に対し一定地域の徴税権を与える制度の名称を記せ。
- 問 5 下線部(d)に関して、11 世紀後半のセルジューク朝の最盛期を支えたイラン人宰相の名にちなんだマドラサの名称を記せ。
- 問 6 下線部(e)に関連して、ムスリム商人やスーフィーによってイスラーム教は東南アジアにも広まったが、15 世紀にマレー半島からスマトラ島の一部を支配し、交易で栄えた王国の名称を記せ。
- 問 7 下線部(f)に関して、ムガル帝国皇帝シャー＝ジャハーンが妃のために建造した墓廟の名称を記せ。
- 問 8 下線部(g)に関して、1932 年にイブン＝サウードが建てた王国の首都の名称を記せ。
- 問 9 下線部(h)に関して、第 4 次中東戦争時のエジプト大統領の名前を記せ。またその大統領のもとで、1979 年にエジプトとイスラエルとの間に結ばれた条約の内容について説明せよ。
- 問10 下線部(i)に関連して、世界経済の主要問題を議論するために、1975 年から開かれるようになった会議の名称を記せ。

3

次の文章は1962年から1965年の間に行われた第二バチカン公会議の最中の1963年に発表されたローマ教皇ヨハネス23世による回勅(教皇が全世界のカトリックの司教に宛てて送る文書)である。この文章を読み、問1～問6に答えよ。なお、文章は原文より一部を省略している。

地上に平和を、とはあらゆる時代に生きる人々が切に願いつづけたものであるが、それは神が定めた秩序を完全に尊重するなかでしか打ち立てることができず、確かなものとすることができない。科学の進歩や技術の発明はこの宇宙の命あるものや自然の諸力のなかにも、^(a)みごとな秩序が支配していることを明らかにしたが、こうした秩序を発見し、その力を我がものとして利用するにふさわしい手段をつくりだす人間の偉大さをも明らかにした。むしろそれは宇宙と人間を創った神の無限の偉大さを示しているのである。

秩序ある実り多き共生の礎となるのは、人はみなペルソナである、すなわち知性と自由意志をもつ自然(本性)だという原理である。^(b)ペルソナとはそれゆえ人間の本性から直接かつ同時に生じる権利と義務の主体である。したがってそれらの権利と義務は普遍的にして不可侵かつ譲渡不可能なものである。……政治共同体〔国家〕も相互に権利と義務の主体であり、それらの関係もまた真理、正義、有効な^(c)連帯、自由のなかで律せられなければならない。個々の人間の関係を律する道徳の法が個々の国家の関係をも律する。このことは、政治共同体を代表する人々が、その名において、その利益のために行動するときも自らの尊厳を放棄できないことを考えるならば明らかである。……公共の統治を委ねられたからといってその人が自らの人間性を放棄せざるをえないと考えるのは愚かである。

残念なことに、経済的に発展した国々では大規模な軍備がなされてきたし、今もなおそれが続いている。そのために膨大な精力と経済的資源が投入されている。そしてその国家の市民は少なからざる犠牲を強いられ、また他の国家も経済発展と社会進歩に必要な協力を受けられないでいる。今日もし平和が可能だとしても、それは^(d)力の均衡に基づく平和でしかありえないということによって、いつも軍備は正当化されてきた。だから、ある国家が軍備を増強すれば、他の国家も

同じ道をとらざるをえない。ある国家が核兵器^(e)を造れば、他の国家も同じだけの破壊力のある核兵器を造らざるをえない。かくして人類はいつ勃発するかもしれない未曾有の混沌をもたらす嵐の悪夢におびえつつ暮らしている。

だからこそ正義と英知と人道の立場から軍備競争の停止を切に願うものである。……平和は最高の効用を有する目標である。平和からは万人が、個人も家族も民族も人類全体も恩恵をこうむる。ピウス 12 世の警鐘が今もなお耳に響いている。「平和によって失われるものは何もない。だが戦争ではすべてが失われる。」

(出典：歴史学研究会編『世界史史料』11 岩波書店)

問 1 歴史上有名な公会議がいくつかあるが、1414 年から 1418 年にわたって開催されたコンスタンツ公会議について、その概要と影響を 100 字以内で説明せよ。

問 2 下線部(a)に関して、19 世紀では近代科学が著しい発展を遂げ、自然科学の分野においても、めざましい成果を挙げた。このなかで、結核菌やコレラ菌を発見した研究者の名前を記せ。またダーウィンの進化論が欧米社会に与えた影響について説明せよ。

問 3 下線部(b)に関して、このような思想はルネサンス期の人文主義によく表れているが、『愚神礼賛』などの著作によって、教会や聖職者の墮落を揶揄したネーデルラントの人文主義者の名前を記せ。

問 4 下線部(c)に関連して、1980 年にポーランドで結成された自主管理労働組合「連帯」の指導者となり、ポーランドの社会主義体制の崩壊後の 1990 年に大統領となった人物の名前を記せ。

問 5 下線部(d)に関連して、ナポレオン戦争後のウィーン体制は、勢力均衡による国際秩序の形成を企図するものであった。ウィーン体制について、次の語句をすべて用いて 100 字以内で説明せよ。なお、使用する回数、順序は問わないが、使用する箇所には下線を引くこと。

正統主義, ドイツ連邦, 永世中立

問 6 下線部(e)に関して、ソ連のゴルバチョフ書記長とアメリカのレーガン大統領という 2 人の指導者によって 1987 年に調印された軍備縮小のための条約名を記せ。